

応急手当（骨折の固定）

- ★ 骨折を固定することにより、悪化の防止と苦痛の軽減を図ることが期待できます。
- ★ 原則、傷病者の示している姿勢のまま固定し、たとえ変形していても矯正してはいけません。

【骨折の固定の手順】

骨折の固定方法

- ・ 傷病者の顔色、表情を見ながら手当てを行います。
- ・ 傷病者の訴えを聞きながら、骨折部位に触れて無用な痛みを与えないよう注意してください。

◆ 前腕部

肘関節から指先までの長さの副子※をあてる。



×…骨折部位

副子が1枚の時は手の甲、2枚の時は骨折部位の外側と内側にあてる。

（例）雑誌を副子にする場合は丸めて覆う。



三角巾で①②の順で縛り固定する。



末梢の血行を妨げない程度の強さで縛り、結び目が骨折部位の上にこないようにする。

◆ 下腿部

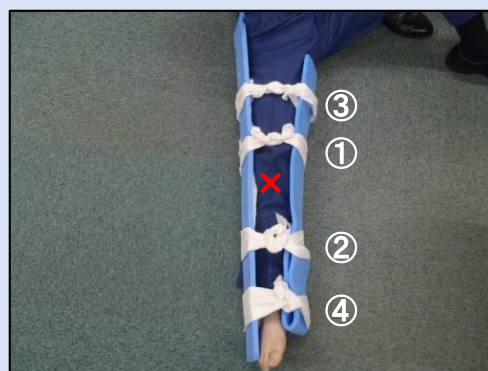
大腿から足先までの長さの副子※を骨折の外側から当てる。



×…骨折部位

副子と固定箇所には隙間がある場合は、間にタオルなどの柔らかいものを入れる。

三角巾で①②③④の順に縛り固定する。



末梢の血行を妨げない程度の強さで縛り、結び目が骨折部位の上にこないようにする。

※副子とは・・・四肢の骨折や脱臼の固定に用いるもので、動揺を防止するための支持物であり、添え木とも言います。折りたたんだ新聞紙、切り重ねた段ボール、雑誌、杖、毛布なども副子として利用できます。